

○気候変動のスピードに対応した新たな抜本的対策を行うため、以下の取組を実施。

- ・ 本川下流のみならず上流や支川などの中小河川も含め、**流域全体で**、国、都道府県、市町村、地元企業や住民などの**あらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」**を本格的に実践。
- ・ 温暖化の影響をあらかじめ治水計画に反映し、中長期的かつ計画的に整備を進めることとし、**順次、ハード整備の長期計画である河川整備基本方針を見直し、治水対策の強化**を行う。
- ・ ハード整備の長期計画である河川整備基本方針は、近年の洪水で大きな流量が発生等の7水系において、気候変動による降雨量の増加を考慮した見直しを完了。引き続き、各水系において見直しを推進。

「流域治水」の本格的実践

流域治水プロジェクトを策定し、本格的に現場レベルの取組を実施中



①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
治水ダムの建設・再生
河道掘削、引堤 等

②被害対象を減少させるための対策
土地利用規制、誘導、移転促進 等

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
水害リスク情報の空白地帯解消
長期予測の技術開発 等

あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」

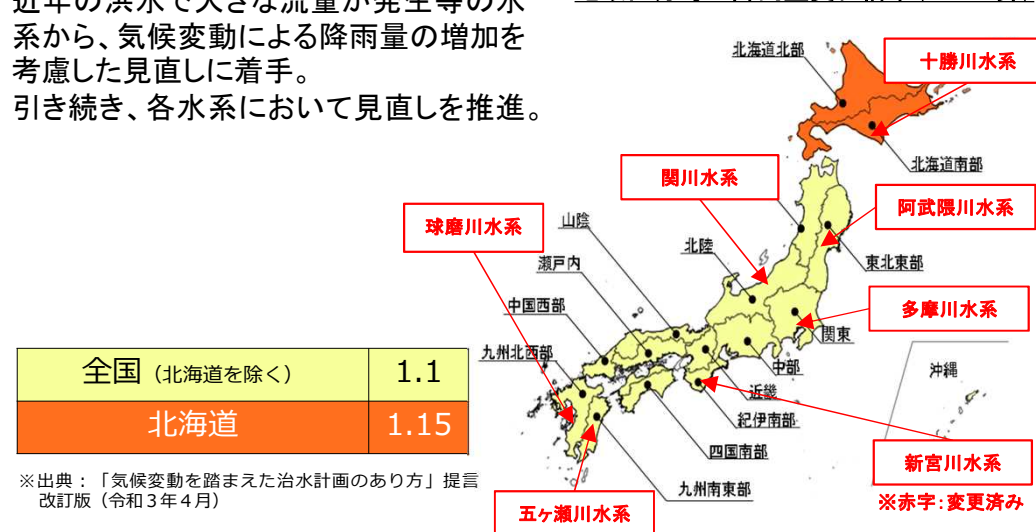
令和3年3月に全国109の一級水系において「流域治水プロジェクト」を策定・公表。二級水系では全国440水系（令和4年3月時点）で策定・公表。

今後、流域治水関連法に基づく特定都市河川の指定拡大を目指し、全国の一級水系・二級水系を対象に指定のロードマップを公表し、指定を進め流域対策を強化。

気候変動の影響を踏まえた治水計画の見直し

近年の洪水で大きな流量が発生等の水系から、気候変動による降雨量の増加を考慮した見直しに着手。
引き続き、各水系において見直しを推進。

地域区分毎の降雨量変化倍率(2℃上昇)



気候変動を踏まえた基本高水の例【氾濫防止のための施設整備の長期目標の流量規模】

